

平成28年度

教育委員会事務局

運営方針

目次

1	教育委員会事務局運営の総括表	1
2	平成28年度重点取組の概要	2
3	「京都市職員コンプライアンス指針」に基づく取組の推進 「京都市市民参加推進計画」に基づく取組の推進	11
4	平成28年度教育予算の概要	12

平成28年度教育委員会事務局運営の総括表

基本方針・重点方針	平成28年度重点取組			
	取組名	目標	計画・条例等	所属等
開かれた学校づくりと市民との共汗で進める教育改革	1 保護者・地域が学校運営に参画する「学校運営協議会」の設置拡大や、学期制や長期休業等を含めた学校運営の在り方の検討	学校運営協議会の更なる活動充実、中学校・中学校区における小中合同での設置拡大、学校運営協議会の取組の先進事例の発信、学期制や長期休業期間の在り方の検討	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課
	2 「京都はぐくみ憲章」の実践促進	28年度行動指針の策定・実践、実践推進者表彰の実施、すぐれた実践の発信・普及	子どもを共に育む京都市民憲章実践推進条例	生涯学習部
	3 子どもたちの教育環境の充実をめざした地域住民・保護者との共汗で進める学校統合及び新しい学校づくり	伏見区向島小中一貫教育校創設に向けた取組の推進、醍醐小学校と樟風小学校の統合に向けた取組の推進、京北地域小中一貫教育校創設に向けた取組の推進、小規模校の保護者・地域への的確な情報提供と協議、検討の促進	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	教育環境整備室、学校統合推進室
確かな学力の育成	4 家庭環境に関わらず全ての子どもたちの可能性を最大限引き出す確かな学力と学習習慣の定着に向けた教育環境の充実	小・中学校全校での「土曜学習」の実施、未来スタディ・サポート教室を拡大し、中学校40校程度（全中学校の約6割）で実施、義務教育9年間の確かな学びを支える「京都市小中一貫学習支援プログラム」の推進	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課
	5 小中一貫教育ガイドライン（試案）に基づく義務教育9年間の系統性を確保した校区の状況に応じた全中学校区での小中一貫教育の推進	全中学校ブロックで小中一貫教育ガイドライン（試案）に基づく校区の状況に応じた小中一貫教育を推進、中学校区における小中学校合同の学校運営協議会の設置拡大	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課
	6 適正な教職員評価による教員の資質・指導力向上と学校・幼稚園の活性化	ミドルリーダー層の拡大・養成に向けた研修実施、OJT活性化、自宅等から研修映像を視聴できる「おうちポータル」等のコンテンツ充実、英語教育や道徳教育等の喫緊の教育課題に関する研修の充実、育児休業中教職員の円滑な職場復帰に向けた支援の充実、給与に反映する教職員評価「査定評価」制度の円滑な実施と教職員の意欲喚起	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	教職員人事課、総合教育センター
創造的で個性豊かな子どもの育成	7 国際文化観光都市・京都ならではのグローバルコミュニケーション力の育成や伝統文化体験活動等の充実	中・高等学校全校での茶道教室など小・中・高等学校全校での伝統文化体験活動の実施、英語教育推進研究拠点校での小学校英語教科化等を見据えた取組の推進や、英語検定補助事業による中・高校生の受験促進、海外研修・留学への支援や日吉丘高校「英語村」の運用、京都・観光文化検定チャレンジ事業による中・高校生の受験促進、博物館施設等での体験の充実や平安京創生館の授業等での活用推進	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課、生涯学習部、生涯学習総合センター
	8 環境教育・理科教育の推進と企業・大学等と連携した青少年科学センターの取組の充実	KES学校版「環境にやさしい学校」小・中・総合支援学校（小・中学部）全校認定、こどもエコライフチャレンジ推進事業の小学校全校での実施、青少年科学センターの年間入場者数の増加（年間12万人）、企業等の協力による企画展示の実施	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課、青少年科学センター
	9 子ども読書活動の推進に向けた「第3次京都市子ども読書活動推進計画」の実践と学校司書の配置拡大等、学校図書館の活用促進	学校司書の配置日数の拡大、京都市図書館蔵書の学校への年間団体貸出冊数40,000冊以上、京都市図書館による学校園への出前事業や、タブレット端末型PCの活用など学校図書館の機能充実に向けた取組の実施	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課、各図書館
	10 社会的・職業的自立に向けた生き方探究教育の充実や、学校での学びを地域・社会の課題解決につなげる社会参画の力や政治的教養を育む教育の推進	生き方探究教育に係る各種体験学習実施校の拡大（小・中・総合支援学校で延べ390校）、「政治的教養を育む教育学習指導案集」や国の副読本を活用した発達段階に応じた体系的・計画的な授業等の実施、地域や社会での貢献活動やボランティア活動の実施	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課、京都まなびの街生き方探究館
11 多文化が息づくまちづくりに向けた外国人児童生徒等への日本語指導体制等の充実	帰国・外国人児童生徒等の受入体制の充実と個々の状況に応じた日本語指導の拡充、日本語指導担当教員等の指導力向上を図る研修会の充実	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課	
心身ともに健康でたくましい子どもの育成	12 市内115団体が参画する人づくり21世紀委員会と連携した子どもの健全育成	「人づくりフォーラム」・連続講座の開催、京都はぐくみ憲章（子どもを共に育む京都市民憲章）の普及促進に向けた実践活動の推進、各行政区での「中学生と大人の語り合い」等特色ある取組の推進		生涯学習部
	13 「道徳教育推進月間」の取組や新学習指導要領の先行実施による教科化に向けた実践の推進、しなやかな道徳教育の充実や体験活動の推進等、子どもの規範意識を育むための取組の推進	6月・10月の「道徳教育推進月間」における小・中学校全校での公開授業（保護者参加型）や、新たに指名する「道徳教育推進リーダー教師」による各行政区での取組の展開等、全市をあげた研究・実践の推進、非行防止教室の実施（小・中・高等学校全校）や、中学校の生徒会活動の活性化、長期宿泊・自然体験推進事業の実施（小164校）	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課、生徒指導課、生涯学習部、総合教育センター
	14 いじめ・不登校の未然防止と早期発見・解決に向けた対策の充実	いじめ防止条例等に基づき、「京都市子どもの豊かな心と規範意識を育む関係者会議」の開催等、市民ぐるみの取組の充実、引き続き、スクールカウンセラーを小・中・高・総合支援学校全校へ配置するとともに、スクールソーシャルワーカーの配置拠点校拡大（29校）による体制の充実、教員が学級実態をより適切に把握するためのクラスマネジメントシートや「ふれあいの杖」や活版・活友中学校等、不登校を経験した子どもの学びと育ちを支える活動の展開	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	生徒指導課、教育相談総合センター
	15 学校・地域・保護者・関係機関等との連携による薬物乱用防止教育の徹底や、ケータイ、スマートフォン、携帯ゲーム機等、携帯情報通信機器不適切利用防止対策の推進	小・中・高等学校全校における薬物乱用防止教室、薬物乱用防止にかかる教職員研修の実施、青少年健全育成団体と学校・地域・家庭が連携した薬物乱用防止のための研修会や啓発活動の実施、携帯情報通信機器に関する学習・啓発プログラム「みんなで考えよう！スマートフォン・ゲーム機とのつきあい方」の導入、携帯電話事業者との連携による「ケータイ教室」の実施、携帯電話市民インストラクターによる保護者向け啓発講座の実施、「学校非公式サイト等のネット監視システム」の実施	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	生徒指導課、体育健康教育室、生涯学習部
16 「健康長寿のまち・京都」の実現に向けた食育・健康教育、児童生徒の体力向上に向けた取組・運動部活動の充実や、安全教育・安全管理の徹底、防災教育の推進	栄養教諭の全校配置に向けた配置拡大による食に関する指導の充実、「京都市立小学校における食物アレルギー対応の手引」に基づく食物アレルギー対策の推進、「京都市通学路交通安全プログラム」に基づく関係機関と連携した通学路の安全確保の取組、水泳指導をはじめ教育活動における安全対策の徹底、中・高等学校の運動部活動における外部コーチ派遣事業の拡充	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課、体育健康教育室、花背山の家	
障害のある子どもへの教育の推進	17 就学前からの切れ目のない支援や総合支援学校における職業教育の充実、発達障害のある子どもへの学習支援の充実等、障害者差別解消法施行を踏まえた施策の推進	総合育成支援員の配置充実、きめ細かな就学相談の実施、「就学支援シート」の全就学前施設での実施、東山総合支援学校（28年4月独立開校、旧・白河総合支援学校東山分校）を中心とした、地域・企業等との連携による新たな職業教育の推進、総合支援学校生徒の実習先企業数の拡大、LD等通級指導教室での指導を受けることのできる児童生徒の拡大、手話に関する理解促進や聴覚・弱視学級の教育環境の充実	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	総合育成支援課
魅力あふれる高校づくりの推進	18 進路希望の実現を目指す特色ある高校づくり、「新しい定時制単独高校」や「新しい普通科系高校」の創設に向けた取組	各私立高校における魅力あふれる教育の推進、技術で社会に貢献する人材育成を目指す京都工学院高校の着実な運営、「新しい定時制単独高校」創設に向けた基本設計・実施設計の着手、「新しい普通科系高校」創設に向けた基本構想の策定	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課
子育て支援の充実	19 「子どもを共に育む『親支援』プログラム」・「青少年のための『親学習』プログラム」の推進	「はっこり子育てひろば」の実施（1,500回）、青少年のための「親学習」プログラムの活用推進	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	生涯学習部、こどもみらい館
	20 子ども子育て支援新制度を踏まえた、子育て環境の一層の充実に向けた私立・市立幼稚園の預かり保育の充実等	私立幼稚園等における「預かり保育」の充実、市立幼稚園全園で、原則として長期休業期間中を含む平日18時までの預かり保育の充実	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	総務課、学校指導課
子どもたちがいきいきと学べる安心安全で特色ある教育環境整備	21 防災と環境に配慮した学校施設・施設整備事業の計画的な推進	体育館リニューアル事業：工事着手（4校）、設計の実施（4校）、体育館改築事業：工事着手（2校）、設計の実施（2校）、プールリニューアル事業：工事着手（3校）、設計の実施（3校）、校舎長寿命化事業：工事着手（3校）、設計の実施（3校）、基本計画策定（3校）、「学校施設マネジメント計画 第1期行動計画」の策定	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	教育環境整備室
	22 学校図書館のリニューアル、学校トイレの洋式化等、学校施設の整備推進	市内産木材を活用した学校図書館の環境整備（44校）、快適トイレの整備（14校）、洋式トイレの整備（15校）	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	教育環境整備室
生涯学習の推進	23 市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の構築	生涯学習ポータルサイトの充実、博物館や大学等との連携による多彩な学習機会の提供、充実	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	生涯学習部、生涯学習総合センター
	24 市立図書館の更なる利便性の向上	貸出冊数・利用者数の増、図書館環境の整備	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	各図書館
	25 日本初の開催となる「I COM（国際博物館会議）京都大会2019」の成功に向けた取組	市内組織や関係団体との連絡会議等、大会成功に向けた準備・運営体制の構築、京博連に加盟する博物館による関連企画展等、大会の機運を高める事業の検討・調整	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	生涯学習部

平成28年度重点取組の概要

※以降に記載する前年度の取組成果については、平成28年4月時点で把握している状況を記載しています。

開かれた学校づくりと市民との共汗で進める教育改革

1 保護者・地域が学校運営に参画する「学校運営協議会」の設置拡大や、学期制や長期休業等を含めた学校運営の在り方の検討【16,349千円】

＜学校指導課＞

保護者や地域の方々に学校の応援団として、教育活動や学校運営に参画いただく、京都方式の学校運営協議会の活動充実・設置拡大を図ります。また、義務教育学校の設置を可能とする制度改正や、今年度中の改訂告示が予定される新学習指導要領の下で、保護者・地域との連携や小中一貫教育の更なる推進の必要性がより一層高まっており、中学校区内の小学校の長期休業期間統一や学期制の在り方について検討を進めます。

取組目標

- ・学校運営協議会の更なる活動充実、中学校や中学校区における小中学校合同での設置拡大
- ・学校運営協議会の取組の先進事例の発信
- ・学期制や長期休業期間の在り方の検討

前年度の取組成果

- ・233校・園（幼12,小166,中48,総7）に学校運営協議会を設置（市区町村別で全国最多）

2 「京都市はぐくみ憲章」の実践促進【6,000千円】

＜生涯学習部（保健福祉局共管）＞

子どもを健やかに育むための市民共通の行動規範である「京都市はぐくみ憲章（子どもを共に育む京都市民憲章）」の理念が、「人ごとでなく、自分ごと、みんなごと」として実践されることを目指し、その積極的な普及・促進を図ります。

取組目標

- ・28年度行動指針の策定・実践、実践推進者表彰の実施
- ・すぐれた実践の発信・普及

前年度の取組成果

- ・子どもを共に育む京都市民憲章推進協議会での審議を踏まえた取組の実施
- ・27年度行動指針の策定・実践、実践推進者表彰式の開催
- ・憲章の愛称及び新ロゴマークを活用した憲章の普及促進

3 子どもたちの教育環境の充実をめざした地域住民・保護者との共汗で進める学校統合及び新しい学校づくり【1,039,500千円】

＜学校統合推進室、教育環境整備室＞

より良い教育環境の実現を目指し、保護者・地域と行政との「共汗」により、行政としての説明責任をより一層徹底する中で、保護者・地域と十分協議し、その論議・検討を尊重する「地元主導」による学校統合を推進します。

取組目標

- ・伏見区向島小中一貫教育校創設に向けた取組の推進
- ・醒泉小学校と淳風小学校の統合に向けた取組の推進
- ・京北地域小中一貫教育校創設に向けた取組の推進
- ・小規模校の保護者・地域への的確な情報提供と論議・検討の促進

前年度の取組成果

- ・小規模校問題に関する保護者・地域への的確な情報提供と論議・検討の促進

確かな学力の育成

4 家庭環境に関わらず全ての子どもたちの可能性を最大限引き出す確かな学力と学習習慣の定着に向けた教育環境の充実【103,016千円】

＜学校指導課＞

自主学習の習慣化や、保護者・地域の参画を得た伝統文化体験活動等を実施する。また、「土曜学習」を小・中学校全校において実施するとともに、家庭環境にかかわらず、全ての子どもたちが可能性を最大限に伸ばせるよう、義務教育9年間の確かな学びを支える「京都市小中一貫学習支援プログラム」の推進や、小・中学校が連携し、学習の遅れがちな子どもや家庭学習の習慣が身に付いていない子どもを対象に放課後等に基礎学力定着のための学習支援を行う「未来スタディ・サポート教室」を実施します。

取組目標

- ・小・中学校全校での「土曜学習」の実施
- ・未来スタディ・サポート教室を拡大し、中学校40校程度（全中学校の約6割）で実施
- ・義務教育9年間の確かな学びを支える「京都市小中一貫学習支援プログラム」の推進

前年度の取組成果

- ・小・中学校全校での「土曜学習」の実施
- ・未来スタディ・サポート教室を中学校31校で実施
- ・義務教育9年間の確かな学びを支える「京都市小中一貫学習支援プログラム」の推進

5 小中一貫教育ガイドライン（試案）に基づく義務教育9年間の系統性を確保した校区の状況に応じた全中学校区での小中一貫教育の推進【12,895千円】

＜学校指導課＞

義務教育9年間の子どもたちの豊かな「学び」と「育ち」の充実のため、小・中学校が目指す子ども像を共有するとともに、保護者や地域の方々に参画いただきながら、地域ぐるみの小中一貫教育を全市で展開しています。今後、28年3月に作成した「小中一貫教育ガイドライン（試案）」に基づき、各中学校ブロックの状況に応じた特色あるカリキュラム導入に向けた検討・実践を進めます。

取組目標

- ・全中学校ブロックで小中一貫教育ガイドライン（試案）に基づき校区の状況に応じた小中一貫教育を推進
- ・中学校区における小中学校合同の学校運営協議会の設置拡大

前年度の取組成果

- ・全小中学校を対象に小中一貫教育校による実践発表を含む研修会を実施
- ・中学校区における小中学校合同の学校運営協議会を14ブロックで設置

6 適正な教職員評価による教員の資質・指導力向上と学校・幼稚園の活性化【212,241千円】

＜教職員人事課・総合教育センター＞

ミドルリーダー養成等の今日的課題を踏まえた、教職キャリアステージに応じた研修体系構築やOJT活用、若手教員資質向上を推進し、教材や研修に関する情報の一元化、自宅等から研修映像を視聴できる環境の構築等、授業づくりと研修環境の整備を進めます。また、英語教育や道徳教育等の喫緊の教育課題に関する研修や、育児休業中の教職員の支援を充実するとともに、引き続き教職員の活躍を給与に反映する評価制度を実施します。

取組目標

- ・ミドルリーダー層の拡大・養成に向けた研修実施、OJT活性化、自宅等から研修映像を視聴できる「おうちポータル」等のコンテンツ充実
- ・英語教育や道徳教育等の喫緊の教育課題に関する研修の充実
- ・育児休業中教職員の円滑な職場復帰に向けた支援の充実
- ・給与に反映する教職員評価「査定評価」制度の円滑な実施と教職員の意欲喚起

前年度の取組成果

- ・「京都市OJT実践ガイドライン（試案）」を活用した研修等の推進
- ・「総合教材ポータルサイト」の機能充実と「おうちポータル」の運用開始
- ・英語教育や道徳教育等の喫緊の教育課題に関する研修の充実
- ・育児休業中教職員の円滑な職場復帰に向けた研修の実施

創造的で個性豊かな子どもの育成

7 国際文化都市・京都ならではのグローバルコミュニケーション力の育成や伝統文化体験活動等の充実【376,939千円】

＜学校指導課、生涯学習部、生涯学習総合センター＞

東京オリンピック・パラリンピックの開催や文化庁の京都移転も踏まえ、本市に息づく和の文化を生活化し、京都の魅力を自らの体験等を通して発信するとともに、英語を使って海外からの観光客をはじめ外国人に“おもてなし”を実践することができる、国際文化観光都市・京都ならではのグローバルな子どもの育成を目指し、子どもたちが「日本・京都を知る取組」「日本・京都を伝える取組」を推進します。

取組目標

- ・中・高等学校全校での茶道教室など小・中・高等学校全校での伝統文化体験活動の実施
- ・英語教育推進研究拠点校での小学校英語教科化等を見据えた取組の推進や、英語検定補助事業による中・高校生の受験促進
- ・海外研修・留学への支援や日吉ヶ丘高校「英語村」の運用
- ・京都・観光文化検定チャレンジ事業による中・高校生の受験促進
- ・博物館施設等での体験の充実や平安京創生館の授業等での活用推進

前年度の取組成果

- ・小・中学校全校で伝統文化体験活動の実施
- ・京都市英語教育推進研究拠点校を22校指定（小16、中5、高1）し、調査研究を実施
- ・市立中学生、高校生の英検受験促進（中学生5,390名、高校生558名が補助を活用）
- ・「平安京創生館」を活用した授業を実施（小学校9校）
- ・京都・観光文化検定試験3級チャレンジ事業（市内在住・在学の中学生・高校生91校643名）

8 環境教育・理科教育の推進と企業・大学等と連携した青少年科学センターの取組の充実

【85,843千円】＜学校指導課，青少年科学センター＞

「環境モデル都市」で育つ子どもたちの豊かな感性や問題解決能力を育むため、地域や大学、企業等との連携による教育活動全体を通じた環境学習を展開します。科学センターにおいては、理科好きな子どもを育むため、大学、企業等の協力による企画展示や実験教室の開催等各種事業の充実を図るとともに、平成31年度の開館50周年に向け、展示スペースのリニューアル等を引き続き進めます。

取組目標

- ・KES学校版「環境にやさしい学校」小・中・総合支援学校（小・中学部）全校認定
- ・こどもエコライフチャレンジ推進事業の小学校全校での実施
- ・企業等の協力による企画展示の実施

前年度の取組成果

- ・KES学校版「環境にやさしい学校」小・中・総合支援学校（小・中学部）全校認定
- ・こどもエコライフチャレンジ推進事業の小学校全校での実施
- ・「未来のサイエンティスト養成事業」の実施（参加人数792人）
- ・青少年科学センター展示スペースのリニューアル、展示品の新規制作

9 子どもの読書活動の推進に向けた「第3次京都市子ども読書活動推進計画」の実践と学校司書の配置拡大等、学校図書館の活用促進【123,769円】＜学校指導課，生涯学習部，各図書館＞

市立図書館との連携により、学校図書館の「読書センター」「学習・情報センター」としての機能充実や、学校司書の配置拡大、魅力ある学校図書館を目指します。また、「第3次京都市子ども読書活動推進計画」（計画期間：平成26年度～30年度）に基づき、学校・家庭・地域等の連携の下、子どもの読書活動の更なる充実に向けた取組を進めます。

取組目標

- ・学校司書の配置日数の拡大
- ・京都市図書館所蔵図書の学校への年間団体貸出冊数40,000冊以上
- ・京都市図書館による学校園への出前事業や、タブレット端末型PCの活用など学校図書館の機能充実に向けた取組の実施

前年度の取組成果

- ・全小・中・総合支援学校への学校図書館運営支援員（学校司書）の配置完了
- ・1年間に100冊以上の本を読む子ども2万人の達成（28,719人）
- ・京都市図書館所蔵図書の学校への年間団体貸出冊数42,988冊
- ・学校図書館運営の手引作成
- ・全ての京都市立小・中学校の学校図書館へ京都に関連する図書を整備

10 社会的・職業的自立に向けた生き方探究教育の充実や、学校での学びを地域・社会の課題解決につなげ社会参画の力や政治的教養を育む教育の推進【91,108千円】

＜学校指導課・京都まなびの街生き方探究館＞

「京都まなびの街生き方探究館」での、小中学生の職業・生活設計体験を行う「スチューデントシティ・ファイナンスパーク事業」や、中学生の職場・勤労体験を行う「生き方探究・チャレンジ体験推進事業」等の体験学習を通し、京都の産業に対する関心を深め、自らの生きる力を育む「生き方探究教育」の充実を図ります。また、選挙権年齢の引下げを踏まえ、小・中・高等学校において、地域・NPO等との連携の下、本市独自の「政治的教養を育む教育学習指導案集」や国の副読本を活用した実践的授業や地域や社会でのボランティア活動等を推進し、地方自治や政治、選挙に対する関心、主体的に選択する力や判断力を高め、他者と協働して様々な課題を解決していく社会の形成者としての資質や能力の育成を図ります。

取組目標

- ・生き方探究教育に係る各種体験学習実施校の拡大（小・中・総合支援学校で延べ390校）
- ・「政治的教養を育む教育学習指導案集」、国の副読本を活用した発達段階に応じた体系的・計画的な授業等の実施
- ・地域や社会での貢献活動やボランティア活動の実施

前年度の取組成果

- ・スチューデントシティ・ファイナンスパーク事業（小・中・総合支援学校224校16,225名）
- ・生き方探究・チャレンジ体験推進事業（中・総合支援学校77校 9,802名）
- ・京都モノづくりの殿堂・工房学習（小学校154校 9,296名）
- ・市立高校グローバルフェスタ（中学生約300名）

11 多文化が息づくまちづくりに向けた外国人児童生徒等への日本語指導体制等の充実

【24,316千円】＜学校指導課＞

日本語指導担当教員の派遣等の総合的な支援を行うトータルサポート校を設置し、日本語の巡回指導の担当教員、学校生活の適応促進や通訳等の母語による支援を行う母語支援員を配置する等、日本語の理解が十分でない帰国・外国人児童生徒等への支援体制を更に充実させるとともに、指導者の指導力向上を図る取組を推進します。

取組目標

- ・帰国・外国人児童生徒等の受入体制の充実と個の状況に応じた日本語指導の拡充
- ・日本語指導担当教員等の指導力向上を図る研修会の充実

心身ともに健全でたくましい子どもの育成

12 市内115団体が参画する人づくり21世紀委員会と連携した子どもの健全育成【10,101千円】

＜生涯学習部＞

平成10年の発足以来、教育や保育、青少年健全育成団体はもとより、女性、医療、福祉、文化、スポーツ、経済等の幅広い115団体が参画し、市民みんなで考え、行動し、情報発信する人づくり21世紀委員会との連携のもと、子ども一人一人が健やかに育つ社会づくりを推進します。

取組目標

- ・「人づくりフォーラム」、連続講座の開催
- ・京都市はぐくみ憲章（子どもを共に育む京都市民憲章）の普及促進に向けた実践活動の推進
- ・各行政区での「中学生と大人の語り合い」等特色ある取組の推進

前年度の取組成果

- ・「人づくりフォーラム」（総参加者数600名）、連続講座・研修会の開催（総参加者数360名）
- ・京都市はぐくみ憲章の普及促進（京都市動物園に「はぐくみの樹」を記念植樹）
- ・小・中学生と大人との語り合い事業を各行政区（計23箇所）で実施

13 「道徳教育推進月間」の取組や新学習指導要領の先行実施による教科化に向けた実践等、しなやかな道徳教育の充実や体験活動の推進等、子どもの規範意識を育むための取組の推進

【10,004千円】＜学校指導課、生徒指導課、生涯学習部、総合教育センター、花背山の家＞

学校・家庭・地域が一体となった市民ぐるみの開かれた道徳教育を推進するとともに、新学習指導要領の内容を28年4月から小・中・総合支援学校全校で先行実施し、研究・実践に取り組みます。また、子どもたちの社会的自立に向け、問題行動の防止はもとより、望ましい生活習慣確立による学力の定着・向上や、仲間との集団生活や自然体験を通じた責任感・自立性・協調性の育成や絆の大切さを実感する取組の充実に向け、保護者・市民団体・学校及び行政機関の連携による活動の推進や長期宿泊体験活動等、子どもたちの規範意識を育むための取組を充実します。

取組目標

- ・6月・10月の「道徳教育推進月間」における小・中学校全校での公開授業（保護者参加型）や、新たに指名する「道徳教育推進リーダー教師」による各行政区での取組の展開等、全市をあげた研究・実践の推進
- ・非行防止教室の実施（小・中・高等学校全校）や、中学校の生徒会活動の活性化
- ・長期宿泊・自然体験推進事業の実施（小164校）

前年度の取組成果

- ・京都ならではの地域特色を生かした教材・指導案集の開発、道徳教育推進月間における公開授業実施（小・中学校全校）
- ・非行防止教室の実施（小・中・高等学校全校）
- ・「京都市子どもの豊かな心と規範意識を育む関係者会議」（全3回）、中学校支部代表生徒による「京都市中学校生徒会サミット2015」の開催
- ・長期宿泊・自然体験推進事業の実施（小160校、内128校が花背山の家を利用）

14 いじめ・不登校の未然防止と早期発見・解決に向けた対策の充実【374,259千円】

＜生徒指導課，教育相談総合センター＞

「京都市いじめの防止等に関する条例」や取組指針、各校が定める基本方針に基づきいじめ防止等の取組の更なる充実を図ります。また、各校において、不登校傾向にある児童生徒についての小・中学校間における情報連携を密にしながら、一人一人の自己存在感や自己有用感を徹底的に大切にされた集団づくりを進めます。不登校児童生徒に対しては、未然防止をはじめ、小集団での体験活動や学習活動等を通じた学校復帰、社会適応等を支援します。

取組目標

- ・いじめ防止条例等に基づき、「京都市子どもの豊かな心と規範意識を育む関係者会議」の開催等、市民ぐるみの取組の充実
- ・引き続き、スクールカウンセラーを小・中・高・総合支援学校全校へ配置するとともに、スクールソーシャルワーカーの配置拠点校拡大(29校)による体制の充実
- ・教員が学級実態をより適切に把握するためのクラスマネジメントシートの活用
- ・「ふれあいの杜」や洛風・洛友中学校等、不登校を経験した子どもの学びと育ちを支える活動の展開

前年度の取組成果

- ・条例及び取組指針に基づくいじめ問題への対応の充実
- ・「京都市子どもの豊かな心と規範意識を育む関係者会議」の開催（3回開催）
- ・教員が学級実態をより適切に把握するためのクラスマネジメントシートの活用

15 学校・地域・保護者・関係機関等との連携による薬物乱用防止教育の徹底や、ケータイ・スマートフォン、携帯ゲーム機等、携帯情報通信機器の不適切利用防止対策の推進【3,045千円】

＜生徒指導課，体育健康教育室，生涯学習部＞

「薬物は子どもたち一人一人の身近に迫っている」との強い危機感を共有し、教職員研修、薬物乱用防止教育の充実や学校・家庭・地域との連携による薬物乱用防止対策を推進します。また、スマートフォン等の急速な普及に伴い、無料通話アプリ等を介したトラブルや犯罪等の危険性、長時間利用等の依存性の問題が増加する中、家庭でのルールづくりや、市民や事業者と連携した啓発活動など、社会総がかりで携帯情報通信機器の不適切利用防止対策を推進します。

取組目標

- ・小・中・高等学校全校における薬物乱用防止教室、学校・地域・家庭が連携した薬物乱用防止のための研修会や啓発活動の実施
- ・学習・啓発プログラム「みんなで考えよう！スマートフォン・ゲーム機とのつきあい方」の導入や、携帯電話市民インストラクターによる保護者向け啓発講座の実施
- ・「学校非公式サイト等のネット監視システム」の実施

前年度の取組成果

- ・中・高等学校全校での薬物乱用防止教室，小学校での薬物乱用防止教室の実施拡大（133校），薬物乱用防止にかかる教職員向け講習会の実施
- ・警察，学校関係，保護者の各代表と高校生が語り合う「薬物乱用防止シンポジウム」の開催（参加者180名）
- ・学習・啓発プログラム（授業モデル）の策定，「ケータイ教室」の実施（143校），保護者向け啓発講座の実施（75校）
- ・「学校非公式サイト等のネット監視システム」の実施（検知投稿件数1,700件）

16 「健康長寿のまち・京都」の実現に向けた食育・健康教育，児童生徒の体力向上に向けた取組・運動部活動の充実や安全教育・安全管理の徹底，防災教育の推進【619,496千円】

＜学校指導課，体育健康教育室，花背山の家＞

学校給食における和食の推進や食物アレルギー対策等の食育・健康教育を推進します。また，子どもの体力向上を目指した取組の計画的な推進や，部活動の指導のあり方等を定めた活動指針の整備，中・高等学校における専門性の高い部活動指導を進めます。更に，児童生徒への安全指導，教育活動・登下校中の安全管理を徹底し，災害に適切に対応する能力を培う防災教育に取り組みます。

取組目標

- ・栄養教諭の全校配置に向けた配置拡大による食に関する指導の充実
- ・「京都市立小学校における食物アレルギー対応の手引」に基づく食物アレルギー対策の推進
- ・「京都市通学路交通安全プログラム」に基づく関係機関が連携した通学路の安全確保の取組
- ・水泳指導をはじめ教育活動における安全対策の徹底
- ・中・高等学校の運動部活動における外部コーチ派遣事業の拡充

前年度の取組成果

- ・毎月1回程度の「和食推進の日」設定，「和食」の特徴を強調した「和(なごみ)献立」の提供開始
- ・PEN食器の導入（3ヶ年計画1年目として50校），「スチームコンベクションオープン」の試行導入
- ・日本料理に学ぶ食育カリキュラムによる出前授業の実施（16校）
- ・「京都市通学路交通安全プログラム」の策定（平成27年7月）
- ・子どもの体力向上「ジャンプアップ・プロジェクト」の小学校全校での実施
- ・京都市小学校「大文字駅伝」大会のコース変更や30回記念事業の実施
- ・「小学校部活動等ガイドライン（案）」や，「中学校運動部活動における留意事項（試案）」作成。

障害のある子どもへの教育の推進

17 就学前からの切れ目のない支援や総合支援学校における職業教育の充実，発達障害のある子どもへの学習支援の充実等，障害者差別解消法施行を踏まえた施策の推進【518,043千円】

＜総合育成支援課＞

きめ細かな就学相談の実施や，就学前段階の配慮・支援の情報を小学校に伝える「就学支援シート」を全幼稚園・保育所等で実施する等，教育・福祉の連携による切れ目のない支援を進め，障害者差別解消法の趣旨を踏まえた，障害のある子ども一人一人のニーズに応じた教育を推進します。また総合支援学校では，就職を希望する生徒や保護者の願いに応えるため，保護者や地域，企業等との連携の下，設置時から約2倍に定員を拡大した職業学科をはじめ高等部生徒の企業実習の更なる拡充を図るとともに，独立開校した東山総合支援学校を中心とした，地域と企業等と共に生徒を育む新たな職業教育を推進します。さらに，LD（学習障害）等の支援の必要な児童生徒の指導・支援充実のため，引き続き総合育成支援員の必要な学校全校への配置やLD等通級指導教室の増設を図ります。また，すべての子どもが障害についての理解と認識を深め，互いを尊重し共に成長し合う教育を推進するため，手話が言語であるとの理解や点字，ユニバーサルデザイン等に関する学習を発達段階に応じて進めます。

取組目標

- ・総合育成支援員の配置充実
- ・きめ細かな就学相談の実施，「就学支援シート」の全就学前施設での実施
- ・東山総合支援学校（28年4月独立開校。旧・白河総合支援学校東山分校）を中心とした，地域・企業等との連携による新たな職業教育の推進，総合支援学校生徒の実習先企業数の拡大
- ・LD等通級指導教室での指導を受けることのできる児童生徒の拡大
- ・手話に関する理解促進や難聴・弱視学級の教育環境の充実

前年度の取組成果

- ・「就学支援シート」実施就学前施設数（26年度：362施設，27年度：366施設）
- ・白河総合支援学校東山分校を中心とした，地域・企業等との連携による新たな職業教育の推進，総合支援学校生徒の企業実習回数（26年度：938回，27年度：897回【速報値】）
- ・通級指導を受けている児童生徒数（26年度：457名，27年度：590名）

魅力あふれる高校づくりの推進

18 進路希望の実現を目指す特色ある高校づくり，「新しい定時制単独高校」や「新しい普通科系高校」の創設に向けた取組【183,431千円】 <学校指導課>

中学生が，より主体的に高校を選択できる「京都市・乙訓地域公立高校の新たな教育制度」の下，市立高校の生徒一人一人の進路希望の実現に向けて，個性・能力の伸長につながる魅力あふれる教育活動を推進します。また，不登校経験や特別な支援が必要な生徒等，新たな教育ニーズに応える「新しい定時制単独高校」の創設や，多様な分野で社会に貢献できる生徒の育成を目指す「新しい普通科系高校」の創設に向けた基本構想の策定等，市立高校改革の更なる推進を図ります。

取組目標

- ・各市立高校における魅力あふれる教育の推進
- ・技術で社会に貢献する人材育成を目指す京都工学院高校の着実な運営
- ・「新しい定時制単独高校」創設に向けた基本設計・実施設計の着手
- ・「新しい普通科系高校」創設に向けた基本構想の策定

前年度の取組成果

- ・京都市・乙訓地域公立高校の新しい教育制度の推進
- ・「京都工学院高校」開校（平成28年4月）に向けた取組の推進
- ・「新しい定時制単独高校」創設に向けた取組の推進
- ・普通科系5校：4年制大学現役進学率63.2%，工業高校2校：学校斡旋就職内定率100%（14年連続）

子育て支援の充実

19 「子どもを共に育む『親支援』プログラム」・「青少年のための『親学習』プログラム」の推進【586千円】 <生涯学習部，こどもみらい館>

妊娠中の方から思春期までの子どもを持つ保護者を対象に，親としての心構えや必要な知識・技術等を子どもの発育・発達段階に応じて学べる「親支援プログラム～ほっこり子育てひろば～」を保健センター，児童館，保育所（園），幼稚園，小・中学校等で実施し，子育ての不安感・孤立感軽減を図ります。また，これから親になる世代（青少年）のための親学習プログラムの拡大を図ります。

取組目標

- ・「ほっこり子育てひろば」の実施（1,500回）
- ・青少年のための「親学習」プログラムの活用推進

前年度の取組成果

- ・「ほっこり子育てひろば」の実施（1065回，平成28年2月末現在）
- ・青少年のための「親学習」プログラムの活用推進

20 子ども子育て支援新制度を踏まえた，子育て環境の一層の充実に向けた私立・市立幼稚園の預かり保育の充実等【164,456千円】 <総務課，学校指導課>

子ども・子育て支援に関する新制度の下，多様化する保護者の就労形態や様々なニーズに応え，質の高い幼児教育が提供できる「教育・子育て環境日本一」のまちづくりを実現するため，保育時間終了後や長期休業期間中等の預かり保育の更なる充実を図ります。

取組目標

- ・私立幼稚園等における「預かり保育」の充実
- ・市立幼稚園全園で，原則として長期休業期間中を含む平日18時までの預かり保育の充実

前年度の取組成果

- ・私立幼稚園等の「預かり保育」を支援する本市独自の補助制度を実施（実支給園数69園）

- ・市立幼稚園全園で、原則として長期休業期間中を含む平日18時までの預かり保育を実施

子どもたちがいきいきと学べる安心安全で特色ある教育環境整備

21 防災と環境に配慮した学校施設・施設整備事業の計画的な推進 【3,729,720千円】

＜教育環境整備室＞

安心安全に学べる学校施設の整備を進めるとともに、災害発生時に地域の緊急避難場所としても重要な役割を果たす学校体育館、防火用水や生活用水として災害対策としても重要な役割を果たす学校プールについて、「学校教育活動の場としてふさわしい防災機能強化型」の施設に向けた整備を行います。さらに、老朽化した校舎の長寿命化、省エネルギー等環境に配慮した大規模改修を実施します。加えて「学校施設マネジメント計画」に基づき、学校施設を最適に維持管理し有効活用を図るため、「第1期行動計画」を策定します。

取組目標

- ・体育館リニューアル事業：工事着手（4校）、設計の実施（4校）
- ・体育館改築事業：工事着手（2校）、設計の実施（2校）
- ・プールリニューアル事業：工事着手（3校）、設計の実施（3校）
- ・校舎長寿命化事業：工事着手（3校）、設計の実施（3校）、基本計画策定（3校）
- ・学校施設マネジメント計画 第1期行動計画の策定

前年度の取組成果

- ・体育館リニューアル事業：工事着手（4校）、設計の実施（4校）
- ・体育館改築事業：工事着手（2校）、設計の実施（2校）
- ・プールリニューアル事業：竣工（3校）、設計完成（3校）
- ・校舎長寿命化事業：竣工（3校）、設計完成（3校）、基本計画策定（3校）

22 学校図書館のリニューアル、学校トイレの洋式化等、学校施設の整備推進【414,073千円】

＜教育環境整備室・学校指導課＞

木のぬくもりの中でくつろぎながら読書や学習ができる学校図書館を目指し、京都市地域産材「みやこ桧木」を使用した机・椅子等の整備を進めます。また、学校における重要な生活空間であるトイレについては、明るく居心地の良い「快適トイレ」への全面改修や、生活様式の変化に対応するため洋式化に特化した改修を促進する等、教育環境や地域の防災拠点としての一層の充実に向けた取組を推進します。

取組目標

- ・市内産木材を活用した学校図書館の環境整備（44校）
- ・快適トイレの整備（14校） ・洋式トイレの整備（15校）

前年度の取組成果

- ・市内産木材を活用した学校図書館の環境整備（70校）
- ・快適トイレの整備（17校） ・洋式トイレの整備（12校）

生涯学習の推進

23 市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の構築【1,053千円】

＜生涯学習部、生涯学習総合センター＞

生涯学習総合センター等における生涯学習講座の実施や、生涯学習団体等が主催する各種講座・イベント情報や施設・施策情報等の生涯学習情報の一元的な集約、案内・発信等を行う本市生涯学習ポータルサイト「京（みやこ）まなびネット」の利便性向上とコンテンツ充実等により、生涯学習の主役である市民一人一人の学習活動を支援します。

取組目標

- ・生涯学習ポータルサイトの充実
- ・博物館や大学等との連携による多彩な学習機会の提供、充実

前年度の取組成果

- ・生涯学習ポータルサイトの充実（アクセス件数：243,590件）

- ・博物館や大学等との連携による多彩な学習機会（講座・展示・イベント）を実施

24 市立図書館の更なる利便性の向上【1,475,397千円】 <生涯学習部,各図書館>

市民のニーズや読書スタイルの変化に対応した図書館づくりに向け、市民生活に必要な資料や情報を的確に収集・発信し、児童コーナーの整備等を引き続き実施します。また中央館4館での土曜開館時間延長の試行実施のほか、隣接自治体との図書館相互利用の開始など、より多くの皆様が利用しやすい図書館を目指します。さらに、デジタイズデータの提供をはじめ、様々な情報を提供するサピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）への加入など、障害者差別解消法を踏まえ、誰もが利用しやすい図書館づくりに向けた取組を推進します。

取組目標

- ・貸出冊数、利用者数の増
- ・図書館環境の整備

前年度の取組成果

- ・貸出冊数 765 万冊（26 年度 743 万冊）、利用者数 426 万人（26 年度 416 万人）
- ・図書の郵送返却の開始（H27.7～）、デジタイズデータの貸出開始（H27.7～）、ブックリサイクルの実施（H27.10, H28.1）
- ・児童コーナーの改修：2館、トイレ改修：1館

25 日本初の開催となる「I COM（国際博物館会議）京都大会2019」の成功に向けた取組【3,800千円】 <生涯学習部>

世界の博物館関係者が一堂に会する「I COM（国際博物館会議）大会」が、平成31年（2019年）に日本で初めて京都で開催されるにあたり、京都市の伝統産業や観光の活性化も視野にいたした市内体制等の構築や、京都市内博物館施設連絡協議会（京博連）に加盟する博物館との連携による、同大会の成功に向けた取組を推進します。

取組目標

- ・市内組織や関係団体との連絡会議等、大会成功に向けた準備・運営体制の構築
- ・京博連に加盟する博物館による関連企画展等、大会の機運を高める事業の検討・調整

「京都市職員コンプライアンス推進指針」に基づく取組の推進

本市では、近年職員が逮捕される事案が連続した事態を受け、不祥事根絶と信頼回復に向け、全市を挙げて取り組んでまいりました。教育委員会においても局長級の「監察監」、部長級の「統括監察員」の下で、課長級以上職員を対象とした「きょうかん推進部会」の定期開催や、学校・幼稚園を含む全所属での職場ミーティングの徹底を通して職員の危機管理意識の共有を図り、また「不祥事防止に向けたチェックシート」や服務研修による職員一人一人の意識向上にも努めております。

そうした状況の下、昨年度は公務外非行による懲戒処分の事例はありませんでしたが、今年度も緊張感の緩みを生じさせることなく、より一層取組を推進してまいります。

重点的に実施する取組

- 学校、幼稚園、教育委員会の各職場において、校長・園長や所属長が教職員一人一人に、業務上の課題や人間関係、家庭生活上の悩み等を聴き、適切な指導・アドバイスを行う機会を増やし、風通しのよい職場づくりを一層進めると同時に、事務処理誤りや事務の停滞、公務外非行等の未然防止に努めます。
- 「教職員と児童生徒間の携帯電話等の使用について」通知し、教職員の携帯電話や、SNS（ソーシャル・ネットワーク・システム）の使用について、より一層の適正化・厳格化を図ります。
- 教職員ヒアリング、チェックシートに基づく自己点検、職場ミーティング等を通じて、コンプライアンスの徹底や職業倫理の向上の機会として、年二回の「ブラッシュアップ月間」を設定します。
- 本市で管理運用する情報システムについて、情報セキュリティの観点から、手続の適正化や個人情報保護等を目的とした仕組みづくりを一層推進します。

「京都市市民参加推進計画」に基づく取組の推進

- 地域に開かれた学校づくりを進めるために、学校運営協議会の拡充をはじめ、学校や子どもたちの情報や課題、課題解決に向けた行動や評価の共有など、保護者や地域の方々への的確かつ積極的な情報発信を行います。また、保護者・地域の方々との共汗で新しい学校づくりを進めるため、徹底した議論や検討を通して説明責任を果たしてまいります。
- 京都はぐくみ憲章の理念の普及・啓発を進め、市民の皆様の憲章の実践活動を推進し、家庭の教育力向上や市民ぐるみ・地域ぐるみで子育てを支え合う風土づくりや、子ども一人一人が健やかに育つことのできる社会づくりに取り組みます。
- 京都市内で開催される生涯学習に関する各種講座・イベント等や市内の生涯学習関連施設に関する情報の集約と積極的な発信を進め、生涯学習の主役である市民の皆様一人一人の学習活動を支援します。
- 教育委員会事務局と学校現場、また福祉や医療等関係機関との徹底した連携のもと、職員一人一人が本市の教育課題に対して「人ごとではない自分ごと、みんなごと」としてとらえ、市民の皆様に対する「伝える力」を一層強化し、教育委員会、学校、家庭、地域の連携による本市教育の充実を進めます。

平成28年度 京都市教育予算

【予算規模】

項目	28年度	27年度	増△減	前年比	
教育費	465億4700万円	504億200万円	△38億5500万円	△7.6%	
内訳	学校・事務局等運営費	175億7798万円	176億3985万円	△6187万円	△0.4%
	建物等施設整備費	92億6602万円	134億1615万円	△41億5013万円	△30.9%
	人件費	197億300万円	193億4600万円	+3億5700万円	+1.8%

【予算の特色】

平成28年度京都市予算は、極めて厳しい財政状況のもとではあるが、市政の基本計画である「はばたけ未来へ！京プラン」に掲げた京都の未来像を着実に実現するための経費に、財源が重点配分された。

教育委員会では、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」教育理念の下、家庭環境や経済状況にかかわらず、全ての子どもに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の更なる充実に向け、

- 1 独自予算による小・中学校における少人数学級、小中学校学習支援プログラム、放課後・学力ステップアップ事業、土曜学習等による学力向上
- 2 しなやかな道徳教育総合実践推進事業や伝統文化体験活動等による豊かな人間性の育成
- 3 学校給食における「和食」の充実や薬物乱用防止教室、子どもの体力向上「ジャンプアップ・プロジェクト」等による「健全でたくましい子ども」の育成などに取り組む。

加えて、①就学支援シートの活用・充実や総合育成支援員の配置充実など障害のある子どもへの教育の推進、②「いじめの防止等に関する条例」の実践やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの増員等によるいじめ・不登校対策、③学校運営協議会設置校の拡大などの開かれた学校づくり、④市立高校かがやきプランの実施など魅力あふれる高校づくり、⑤子どもたちによる国際文化観光都市・京都の魅力発信事業や「京の食文化」普及・啓発事業など京都ならではの取組を、独自の方式で積極果敢に推進する。

さらに、日々の学びを支える学校施設について、①環境にやさしく、防災機能を高める改築・改修②トイレ洋式化や学校図書館の環境整備など、全市的な学習環境の充実を展開する。

また、「豊かな人生は学びとともにある」という観点から、まち全体を学びの場とすることで、①あらゆる世代の方が自ら生涯を通じて学び、その学びをまちづくり、地域、子どもたちのために活かすことのできる取組、②次代を担う子どもたちを市民ぐるみで健やかに育むため、「京都はぐくみ憲章（子どもを共に育む京都市民憲章）」の実践に向けた取組を推進する。

この予算を最大限に活用し、市民の皆様と共に汗する「共汗」で、全国をリードする教育改革をより一層強力に推進する。